第６回タウンミーティングの意見交換内容について

■日　時：平成２５年１０月２８日（月）午後７時～８時３０分

■場　所：東部公民館大ホール

■参加者：熊本市教育委員会（崎元委員長、森委員、泉委員、田口委員、廣塚教育長）、
市内在住者及び勤務者（５０名）

No.	質問・提案・要望等	回　答	補　足	担当課
1	**○教職員の心のケアについて** 　最近よく耳にすることで、先生方の中で、学校勤務、あるいは、生徒指導において思い悩み、精神的苦痛を感じている先生が多数いると聞いているが、理由は何なのか。	教職員が思い悩み、精神的苦痛を感じる理由として、それぞれ事情は異なると思われるが、ひとつには学校及び教職員に対する保護者又は地域からの苦情や要求が増加傾向にあり、かつ、多様化していることが考えられる。 　そういった教職員の心の健康対策として、平成20年度から精神科医と臨床心理士が、苦情や要求等への対応方法について助言や相談を行う体制を整えており、教職員の精神的負担の軽減を図っているところである。（委員長）		教職員課
2	**○教育方針について** 　現在の教育現場では、受験勉強や成績が重視されているように感じるが、教育現場では何を第一の目的として指導方針を立てているのか。	教育現場では、豊かな人間性や学力、健やかな体の育成等を中心とした子ども達が世の中に出て、健全に生きていける力を養う教育に重点を置いている。（委員長） 　コミュニケーション能力の欠如が、子どもの生きる力に大きく影響していると考えるため、コミュニケーション能力の育成が重要だと考える。（教育委員） 　学校現場では今の時代にあった子どもへの対応が求められていると考える。（教育委員） 　子どもの「生きる力」を育むためには、学校・家庭、地域との連携が重要であると考える。（委員長） 　本市では、「徳・知・体」の調和の取れた次代を担う子どもたちの育成に向け、それぞれの学校で教育目標を立てている。（事務局）		指導課
3	**○いじめアンケートについて** ・いじめについてのアンケートを実施しているが、具体的にどのような内容が報告されているのか。また、その事例に対し、どのような対応、対策をとっているのか。	いじめの未然防止、早期発見の観点から、毎月、各学校では、「きずなアンケート」という名称でアンケートを実施している。また、教育委員会では、年に１回、「心のアンケート」という名称で、すべての小中学校の児童生徒を対象にアンケートを実施しているところである。 　いじめの内容としては、「冷やかし、からかい」、「言いがかり、おどし」など言葉によるもの、「仲間はずれにする」、「物を隠す、汚す」などが報告されている。 　いじめについての記述があったときは、児童生徒の状況に配慮しながら、個別面談を行い、事実を正確に把握して、校長を中心とした学校組織で、保護者や関係機関と連携しながら、迅速・適切な対応に努めている。問題解決後も、声掛けや定期的な教育相談、日記等によりアンテナを高くし、再発防止に努めている。（事務局）		総合支援課

No.	質問・提案・要望等	回　答	補　足	担当課
3	・いじめの解決に向けては、家庭教育が重要であり、学校と家庭が連携協力していくことが必要である。		家族のふれあいで子どもの心の状況を把握し、時間を共有する中でいじめのサインがないか確かめ、気になることは、すぐに学校へ連絡・相談することが大切である。 そのため、学校から配布された学級通信、学校だよりを中心に、家族で語り合う場を設け、いじめは絶対許さないことを確認しあってもらうよう働きかけている。 さらに、教育委員会が全家庭に配布している「子どものサイン発見チェックリスト」を用いて、子どもの小さな変化に気付き、気になる点については学校へすぐに相談する機会を設けている。	総合支援課
4	**○ネット社会に向けた教育の必要性について** ネット社会に潜む危険やそれに対する対応等について、小中学校のカリキュラムの中で教えることはできないのか。	小中学校での道徳の時間、中学校での技術・家庭科の時間を活用して、「情報モラル教育」を実施している。しかし、現状としては、指導資料等が情報化社会の進化に追いついていないところもある。今後、より充実した内容でモラル教育を実施していく必要がある。（事務局）		指導課
5	**○ＳＮＳ（ｿｰｼｬﾙ・ﾈｯﾄﾜｰｷﾝｸﾞ・ｻｰﾋﾞｽ）への対応について** ＳＮＳへの対応は、ＳＮＳやインターネット等に潜む危険性をまず保護者に伝える、保護者が勉強することが重要である。各学校が地域を巻き込んで取り組んでいくことが重要である。		保護者への情報モラル教育を効果的なものとするため、次のような取り組みを推進している。 ●ＳＮＳの児童生徒の安全な利用について、保護者向けの通知文を今年の10月に全家庭に配布 ●学校主催の情報教育の公開授業を実施 ●ＰＴＡ主催の総会や各委員会での勉強会を実施 ●教育委員会主催の研修会を周知し、参加を奨励 ●学校主催の情報モラルの専門家から最新情報を得るための講演会や携帯電話端末等に関する実演講習会を実施 ●学校だよりや生徒指導だよりで、実際に起こっているトラブルなどの情報を周知し、危険性や再発防止を啓発	総合支援課

No.	質問・提案・要望等	回　答	補　足	担当課
6	**○学校での規律について** 　体育館での集会の時など、入場した子ども達は体育座りをし、足の間に顔を入れて下を向いて待っている。中学生なのに、ここまで厳しくする必要があるのだろうか。	学校生活を律するきまりには、通常、学校の校則や生徒心得として定めたものや生徒間の申し合わせによる生活のきまりなどがある。 　校則は、日々の教育指導に関わるものであり、児童生徒等の実態、保護者の考え方、地域や社会の実情等を踏まえ、より適切なものとなるよう配慮をしている。 　このようなきまりが広く全校の生徒の間で正しく実践されることにより各学校がよりよい校風を確立し、生徒が充実した学校生活を送ることができる。 　一部の生徒が、違反を繰り返し、教師の指導に従わず反発することがあるが、生徒が規範意識を高め、集団や社会の一員としての自覚と責任をもって自律的に行動できるよう、学校として計画的・組織的に指導している。（事務局）		総合支援課
7	**○体育の授業について** ・体育授業時間内に子どもが給水をお願いしたところ、我慢するように言われた。子どもが熱中症にならないか心配である。	・熱中症対策に関しては、健康教育課において５月と８月の２回、全学校に対し熱中症等への対処法及び事故防止について通知を出しており、各学校においては、適度の水分や塩分の補給、屋外での帽子着用、こまめな休養などの対応を行っていただいているところである。また、授業中の対応に関しては、基本的に学習に専念させる必要があるものの、その日の天候等の状況から給水タイムを設けたり、児童生徒の申し出により給水させたりするなど柔軟な対応を行っているところである。（事務局）		健康教育課
8	**○部活動について** ・部活に入部している子どもから聞くと、家庭の用事等があっても、部活動を休みにくいと聞く。実際はどうなのか。 ・小中学校の部活動に対する基本的な考え方を聞きたい。	・子どもと指導者との関係によっては、言い出し難いということがあるかもしれない。また、大会前の時期などになると休み難いということはあるかもしれない。 　しかし、部活動を休んではいけないということではなく、子どもが指導者に言い難い場合は、保護者が指導者と相談することも大事だと考える。（事務局） ・運動部活動は、学校教育の一環として実施され、部活動指針に基づき実施するよう徹底し、また、決して勝利至上主義にならないように指導している。 　仲間との人間関係や技能の向上等、スポーツの楽しさや喜びを味わう部活動の効用など、子ども達の育ちを第一に考え指導している。（教育長）		健康教育課

No.	質問・提案・要望等	回　答	補　足	担当課
9	**○市立幼稚園基本計画（素案）について** ・「熊本市立幼稚園基本計画（素案）」の中で、古町・熊本五福幼稚園の閉園が予定されている。本計画は、発表に至るまでの経緯やパブコメから計画決定までのプロセスが拙速であり、保護者や地域住民の意見を軽視した動きである。もっと私たち保護者の意見を受け入れてほしい。 ・子どもの教育は、お金がかかるものであり、行政だけで決めるべきものではないため、古町・熊本五福幼稚園の閉園は到底認められない。「熊本市立幼稚園基本計画（素案）」の白紙撤回をお願いしたい。	現在、市立幼稚園基本計画は「素案」の段階であり、それをお示しし、保護者や地域の意見を伺っているところである。 計画決定までのプロセスはまだ決定していないので、十分皆様のご意見をお聞きした上で、市立幼稚園基本計画を検討していきたい。（委員長） 保護者の方の思いは十分伝わっている。保護者の皆様のご意見を十分お聞きしながら、市立幼稚園基本計画を検討していきたい。（委員長）		教育政策課
10	**○食の安全について** 給食の食材について、ガイガーカウンターによる放射能測定検査を実施しているのか。	政府が出荷規制をかけている１都１６県の農作物等については、熊本市の環境総合研究所で放射能測定検査を実施している。（事務局）		健康教育課